

2023年4月16日発行

事務所 武石地域総合センター内
TEL:0268-85-2511
<https://www.s-takeshi.jp>
印刷 中澤印刷株式会社



武石小学校卒業式 3年ぶりにマスク無しで

3月16日、武石小学校卒業式が行われ、27名が学び舎を後にしました。

2020年、卒業生がまだ3年生だった3学期からコロナウイルスが蔓延し始め、3月2日から4年生になった5月末までは臨時休校になりました。子供たちは、マスクを着けて密を避ける授業や遊び、給食は黙食、短時間・簡略化された運動会や音楽会などの学校生活を強いられ、卒業式も3年間出席者を制限し時間短縮・簡略化して行われてきました。

この3月13日から着用の基準が緩和され、この日卒業生は、マスク無しで式を迎えることができました。しかしまだ以前の状態に戻ることはできず、式の出席者は先生方と保護者、在校生4、5年生のみで、出席できなかった1、2、3年生の

卒業生への呼びかけはビデオで流されました。

卒業生からは、学校生活の思い出や「スマイル魂を受け継いでください」という在校生への呼びかけとともに、先生一人ひとりへの感謝の言葉も聞かれました。

校長先生は「3年間の制限された学校生活の中で君たちは力強くなった。可能性を試しチャレンジして欲しい」と祝いの言葉を贈りました。

お知らせ

親子で農業体験 しませんか



ジャガイモを植え付け、夏に収穫祭をします。
4月29日(土)午前中に植え付けをします。

【参加申込】
住みよいたけし会事務局 TEL 85-2511

農友会が解散

武石地域の基幹農業者の集まりである農友会が、今年3月末をもって解散しました。

農友会は、会員の情報交換や親睦、地域の活性化を目的として活動してきました。武石地域は他地域に比べ、基幹となる農業者が比較的多く会員は20名ですが、近年若い人の加入が少なくなり高齢会員の退会希望も増えていました。

昨年は、花市や練馬区民祭への参加なども行いましたが、コロナ禍で活動も制限されていたとの

ことです。このため会員アンケートや話し合いを重ねた結果、解散することになり、3月16日解散総会が行われました。

会が所有していたハム薫製機などの器具はJAの畜産部会へ、また、CO₂濃度測定器や花と野菜の育て方など28冊の本は武石小学校へ寄贈することになりました。

今後農業者の組織はJAの生産部会などだけとなり、地域を横断する農業者の団体はなくなることになってしまい、地域活性化の上でも大変残念なことです。

休日農地相談会開催 農業委員会



2月26日(日)武石地域総合センターで、武石地区農業委員による休日農地相談会が開かれました。

高齢化の進行とともに、農業の担い手がなくなり、山沿いの傾

斜地だけでなくほ場整備された農地でも耕作されない田畑も目に付くようになりました。農地利用をどうしていくかは大きな課題として、地域全体で考えていく必要があります。

農業委員会では毎年休日相談会を開催し、毎回数人の相談があります。最近では、農地を貸したいという相談が多く、この日も水田を貸したい人が訪れていました。

農地や基幹農業者の情報を持つ農業委員会やJAなど、貸借を斡旋する機関につなげてもらい、流動化を推進し有効利用・不耕作地の解消につなげていきたいとしています。

信州上田ふれあいフェスタ

3月4日(土)、地域と音楽を結び隊(児玉篤人代表)など有志で作る実行委員会が主催する信州上田ふれあいフェスタが、JA武石を会場に開催され、春の暖かい日に恵まれ大勢の来場者で賑わいました。



会場には、キッチンカーや小物販売など様々なブースが展開し、トラックの荷台で作られたステージではコカリナや太鼓演奏、シンガーソ

ングライターの歌、ダンスパフォーマンス、バルーンアートショーなどが行われ、子供たちを始めお客さんが楽しんでいました。

また、これに合わせギャラリークラノマでは山の子学園入所の皆さんの作品展・即売会も開催されました。

武石の中心の広場 どんなふうになるの？

市では今年度旧武石村役場跡ににぎわい広場の建設を予定しています。構想では、

- ① 現公用車庫2棟は解体、バス車庫1棟改築
- ② 現在土盛りとなっている旧役場跡地は、土を削ってゆるい傾斜で駐車場との段差は50cm程度とし、芝が貼られる。
- ③ 現在上下2段となっている市駐車場は、上の段が削られ、市道を挟んで一体化される。
- ④ JA精米所の近くに公衆トイレを新築
- ⑤ 旧健康センターや老人センターの跡地はイベント時は臨時駐車スペースとして利用が可能になる

など、武石地域の中心に大きな広場ができることとなります。要望の多かったトイレもできるなど市民のイベントや祭りの場、またコミュニケーション・憩いの場として多くの住民の利用が期待されます。

長野県の中心は武石？

1月18日付信濃毎日新聞に「長野県の人口重心は上田市武石」という記事が掲載されていました。

これは「2020年の国勢調査の長野県の一人ひとりの位置を地図上にプロットすると、全体の体重バランスで武石が長野県の重心になる」という

ものです。総務省のホームページから重心位置の経緯度を詳しく見ると、上本入番所ヶ原スキー場の北の武石川付近になります。

つまり県の人口分布の中心ということですから、武石に県庁や県民文化会館などの公共施設を配置すれば県民が最も使いやすくなる？ かもしれませんね？？？

森厳な余里東替の石尊様 III

郷土史家 児玉卓文

今回は石尊様がどんな神様か、そして近隣の石尊様の祀り様を紹介しました。武石には余里のほかにもう2カ所石尊様を祀る地域があります。

一つは小沢根です。幕打トンネルの少し東方の人家の裏に鳥居があり、それを潜った山根に石に刻まれた大きな不動明王が、ミズナラの大木を背にして慎ましく厳かな雰囲気です。

梅の種を半分にした形の、高さ180cm幅120cmほどの石を、舟形に彫り窪めて不動明王像を浮き彫りにし、彫り窪めた面の上半を火焰が埋めています。像の顔は平べったく、肩から腕が細く、特に足が小さくて短いので、大きな顔が忿怒の表情を見せているのにどことなくユーモラスな姿にみえます。右手の宝剣と左手の繻索は鉄製で差し込まれています。

石の背面には、「嘉永元年甲九月廿八日」と刻まれています。西暦1848年です。何時納められたのでしょうか、像の前には宝剣や鉄製の鳥居が置かれています。

背後の日向山の尾根の高さ120cmほどの岩壁に、約40cm四方の彫り込みを施し木製の庇がかけられた小祠があります。「不動明王の奥の院」と呼ばれ、現在は幣帛のみが納められているようですが、かつては小沢根の大山講の代表が毎年交代で大山に詣で、いただいた「石尊大権現」のお札を納めたものと思われま。

日向山を一体にして、不動明王を麓に、山頂に石尊様を祀るあり方は、相模の大山の大山寺と本宮石尊社の関係によく似ています。

小沢根と余里の人達は小沢根沢最奥に富馬倉山大権現(子檀嶺神社奥社)を祀っています。祭神は祈雨・止雨の水の神「高麗神」です。雨降社ともいわ



れる石尊様を、重ねて祀ったのはなぜでしょうか。

もう一つは鳥屋です。鳥屋砦山頂の本郭跡は、堀切手前の土塁を背に西側に木製の社と覆屋、東に自然石の一面を彫り込んだ不動明王と呼ばれる石像が祀られる境内となっています。

不動明王とされるのは、高さ160cmほどの柱状節理の石材の一面を、将棋の駒状に彫り込んで造形しています。全体に彫りが浅いのですが、大きく彫られた顔の頬の膨らみは特徴的で、頭髪に焰髪えんぱつの表現がなく冠のような表現があります。右手には宝剣、左手には繻索らしきものが造形されています。造立は「元治元年(1864)六月」と刻まれています。

通常、不動明王は、立像か坐像で表現されます。この像は、何かの上で左足を挙げてはねているように見えます。また、背後に火焰の表現がありません。

鳥屋の方は「石尊様」と呼び、西の木の祠には「大山阿夫利神」を祀って、毎年7月の吉日に子供たちを加えてお祭りを行っているの、異形の不動明王なのかも知れません。

昭和63年に武石小学校が作成したふるさとカルタに、「せきそん様 大きなわらじで 疫病はらう」という札があります。見てきたように石尊様は雨降り神で、水のコントロールを願うことを基本とします。集落の出入り口で、疫病や悪疫などのシャットアウトを祈る「道切り」の神とは違います。鳥屋の大きなワラジがかけられた竿には、「牛頭天王」と書かれています。「牛頭天王」は祇園祭りの祭神です。まさに夏の疫病退散を願う神です。



武石を盛り上げる
人やグループ紹介

武石の人 団体

地域包括支援センターは、介護保険法に基づき市町村が主体となって設置され、地域住民の皆さんが住み慣れた自宅や地域で暮らし続けられるように、必要な介護サービスや保健福祉サービス、その他、日常生活支援などの相談を行っている機関です。

現在、上田市には設定した担当圏域ごとに10か所の地域包括支援センターが設置されており、その運営は、上田市からの委託を受けて「社会福祉法人や医療法人」などの団体が行っています。

武石地域包括支援センターは、上田市社会福祉協議会が上田市からの委託を受けて運営しています。担当圏域は、武石地域、及び丸子地域の内村地区、腰越地区で、4名の職員の皆さんが働いています。



武石地域包括支援センターの皆さん(写真の左から)

- 小倉 聖子 さん(看護師)
- 泉 麻里 さん(社会福祉士)
- 横沢 善行 さん(所長・主任介護支援専門員)
- 北原 みゆき さん(生活支援コーディネーター)

地域包括支援センターの特長は、上記職員さん紹介のとおり、専門職種で構成するチームが配置されていることで、一つの窓口で福祉・介護・介護予防など様々な相談に応ずることができます。主な業務には、「介護・福祉の相談や生活のお困りごとの相談を受け、必要な助言や情報提供を行う総合相談」、「成年後見制度の活用、高齢者虐待の早期発見・対応、特殊詐欺被害防止など高齢者の権利を守る支援や情報提供を行う権利擁護」、「要支援1、2の認定を受けた方や要支援となるおそれがある方への介護予防サービス計画書の作成」、などがあります。

また、住民の皆さんが主体的に地区公民館等で介護予防の体操を行う地域リハビリテーション活動の推進、認知症予防の取組み、地域での見守りや支え合いを担う認知症サポーターの養成、などに力を入れているとのこと。

「武石地域は、上田市の中でも高齢化が進んでいる地域で、高齢化率が60%に達している地区もあります。そのため、近所同士の結びつきは強く、住民の



武石地域包括支援センター 所長 横沢 善行さん

皆さんがお互いに声掛けをして、支え合いも上手く行われています」と横沢さんは話していました。



認知症サポーター養成講座(武石小学校6年生クラス)

2025年には、団塊の世代も後期高齢者の仲間入りをすると言われていています。急速な少子高齢化により、これからは“地域の支え合い”がますます重要となるとともに、要介護者にならずに元気に楽しく暮らせるように“介護予防”(体操だけでなく、ボランティアや地域の集まりなど社会参加も)が大切となります。

武石地域包括支援センターでは、“地域の支え合い”に関する講演会と討論会を計画しています。どなたでも自由に参加できますので、足を運んでみてはいかがでしょうか。(詳細は5月の自治会回覧等で連絡予定)

【支え合いを広げる地域づくりシンポジウム】

日時：6月11日(日) 午後1時30分～4時

場所：武石地域総合センター コミュニティホール

「相談に来られた方の話を丁寧に伺いして、適切なサービスを迅速に繋げてゆく事を、日々大切にしています」と横沢さんは話していました。「介護に関すること、生活のお困りごと、など気軽にご相談ください」とのことです。(相談は無料です)

問合せ・相談先(武石地域総合センター2階)

武石地域包括支援センター

電話：0268-41-4055

受付：月～金 午前8時30分～午後5時15分

休み：土、日、祝日、年末年始